

◆第三者評価結果票（兵庫県 様式6）

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年6月9日

【評価実施概要】

事業所番号	2870800956		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき神戸垂水		
所在地	(〒 655-0039) 兵庫県神戸市垂水区霞ヶ丘1丁目3-13		
	電話	078-704-3462	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年4月13日	評価確定日	平成21年6月9日

【情報提供票より】 [平成21年3月20日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月15日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	14人	(常勤12人) (非常勤2人)	/ 常勤換算13.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	地上3階建て建物の 1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	83,000円	その他の経費(月額)	23,000円	
敷金の有・無	有り ( 円 ) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (300,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	200円	昼食	350円
	夕食	400円	おやつ	50円
	または、1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (平成21年4月13日 現在)

利用者人数	計18名 … (男性3名) (女性15名)		
要介護1	6名	要介護2	3名
要介護3	5名	要介護4	4名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均86歳 … (最低77歳) (最高97歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福武内科クリニック	難波歯科医院
---------	-----------	--------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR・山陽「垂水」駅の北西、徒歩約10分(五色塚古墳の近く)。古い商店も建ち並ぶ町中にあり、通所介護事業所も併設。すぐ横には提携医院や派出所があり、医療・治安の面でも心強い。「その土地、風土にあった生活習慣に溶け込み、安定して暮らせる地域作りを目指す」を基本方針に掲げ、地域の一員として馴染みの関係作りに重きを置いている。散歩時の近所の方々との挨拶、資源ごみの回収協力、近隣店の利用(喫茶店、食材の買物)…等々により地域の方々と交流を深めている。小学校の「ふれあいクラブ・まち探検隊」への協力も恒例行事となり、子ども達の訪問は利用者の大きな楽しみである。このほか、ホームの環境を上手く活かしながら、『地域密着型サービス』の質の向上へ日々尽力されている。  
◎参考に、前回・前々回の評価時の資料写真も添付

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①運営推進会議を活かした取り組みとして、地域包括支援センターとも連携し権利擁護についての勉強会を実施した。②家族等への報告については、広報誌(「かけ橋」)を送付し、利用者ごとの近況報告もするようになった。③運営推進会議への出欠を確認する際の書面に、「家族の要望」の記入欄を設けることで、意見や要望の把握に努めた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 全職員がそれぞれに自己評価を行い、それを管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 会議は、利用者代表、利用者家族、地域住民、地域包括支援センター職員などで構成され、2か月に1度開催している。家族に対して会議開催の目的をしっかりと説明し、会議の欠席者に対しても話し合いの内容を報告しており、家族の理解が深まっている(このことは、ご家族アンケートからもよく分かる)。地域包括支援センターの協力により、権利擁護の勉強会も開催でき、これも好評であった。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 運営推進会議に出席できない家族からも、はがきで要望や意見を聴けるよう、その取り組みを始めた。家族の訪問時にも、要望などを「必ず」確認するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) ホーム広報誌「かけ橋」を作成し、近所の商店に配布している。買物や理美容も地域のお店を利用している(利用者は、洋品店で好みの服を選んでもらったり…と、地域の日常風景として町に馴染んでいる)。近隣小学校の子ども達や老人会の方々もホームを訪れることもよくあり、また、利用者が地域福祉センターへ催しものを見に行くなど、地域交流は盛んである。

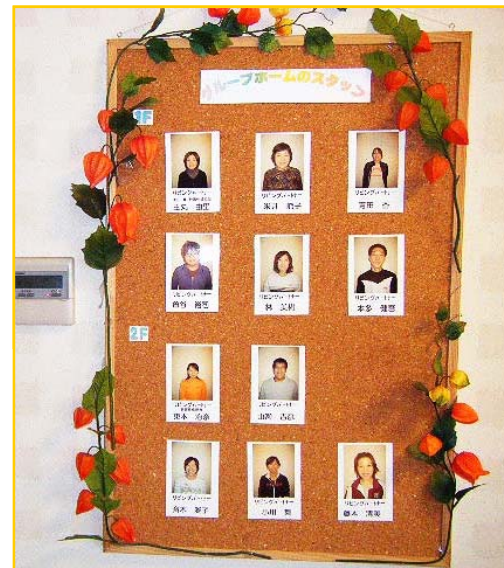
◎食事を楽しむことのできる支援



◎居心地のよい共用空間づくり



◎運営に関する家族等意見の反映  
職員の顔写真をホーム入口に掲示



▲台所に置かれた椅子（利用者への気遣いの一例）  
※利用者はここに座ることで職員を近くに感じ、  
心を落ち着かせている…





▲ホーム外観



▲玄関



▲各階フロア前のドア(チャームを設置)



▲入居者の楽しみ・地域交流  
(よく利用するパン屋さん)



▲近隣との交流(小学生の寄せ書き)

## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は「笑みがこぼれる家庭(入居者の家庭・ほおずきでの家庭・職員の家庭)・・・それが私たちのほこりです」。基本方針の中に「その土地、風土にあった生活習慣に溶け込み、安定して暮らせる地域作りを目指す」と掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、基本理念を職員全員で復唱することによって、職員が日々これを意識できるよう心掛けている。職員は理念に基づいて個人目標を設定し、実現に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム広報誌「かけ橋」を毎月作成し、家族や地域住民に配布している。日常の買い物は利用者と一緒に近所の商店を利用したり、散歩の途中でおしゃべりをしたりし、積極的に地域住民との交流を図っている。近隣小学校の児童や老人会の方々がホームを訪れたり、利用者が地域福祉センターの催しに参加したりもしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組むことでより意識が高まった。外部評価の結果をもとに、運営者の意見も交えて職員会議で改善点を話し合い、改善できる項目から取り組みを進めている。評価結果は運営推進会議で報告し法人ホームページにも掲載している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者代表、利用者家族、地域住民、地域包括支援センター職員などで構成し、2か月に1回開催されている。新たな取り組みとして、地域包括支援センターの協力により、権利擁護の勉強会を実施した(好評であった)。運営推進会議の欠席者に対しても会議で話し合った内容を報告することで、家族等の理解が深まっている。	○	利用者ご家族アンケートも参考に、家族が希望する学習会(テーマ)を検討し、実施してみようか。
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	舞子台地区サービス連絡会議(圏域の地域包括支援センター主催)に出席し、情報交換を行なっている。時には講師役を務め、グループホームについての理解浸透に努めるなどしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族向けにホームの広報誌「かけ橋」を、預かり金の出納状況、受診の報告に併せて送付している。「かけ橋」はホーム内や行事の写真を中心に構成されているが、これのみでは利用者の様子が十分に伝わらないため、これとは別の書面で利用者各々の様子を伝えるようにしている。施設で撮ったたくさんの写真(1年分)をCDにして家族に配布しており、これも好評を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回の頻度で運営推進会議を実施し、意見や不満、要望等を聴く機会を設けている。会議を欠席される方にも、ハガキで意見・不満・要望等を聴くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員による支援を受けられるように、マイチャレンジ(職員それぞれの目標管理)を通じ、ゆっくりと話を聴いたり、職員の希望を配慮した勤務体制を調整したり、離職を最小限に抑えるように配慮している。		



外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者(法人)として、全体研修、新入社員研修、主任研修、施設長研修等、様々な研修を実施している。特に、新入社員には感染症防止・身体拘束廃止・高齢者虐待防止…等々、基本的な研修を必ず実施し、ケアの質の向上につなげている。	○	事例検討やロールプレイング法なども活用して、より具体的な認知症ケアのトレーニングを続けていってほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のサービス連絡会や、他ホームの運営推進会議へに参加するなど同業者と交流する機会を持っている。今後は他ホームとの相互訪問などの機会も作り、さらなるサービスの質の向上に繋げていく予定。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に施設を見てもらい、ゆっくり話をしながらホームの雰囲気を感じとっていただくようにしている。入居してしばらくは、特に職員とのコミュニケーションを多く持てるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との生活の中で、職員は行儀や習慣、料理の方法、味付けなどを利用者からも学び、共に支え合う関係作りをしている。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴、本人・家族の話や行動の中から、思いの把握に努め、本人の望む生活が継続できるよう強く心掛けている。ユニット会議を毎月開催し、利用者情報の共有に努めている。ホームの行事や食事メニューにも利用者意見を反映させ、バスツアーでは、利用者の馴染みの店、親戚を訪ねるなどしている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	多方面からのアセスメント情報に基づき、利用者、家族、担当職員、ケアマネジャーなど関係者の意見をまとめ、介護計画に反映させている。家族の訪問時にカンファレンスを実施するなどして、定期的に職員と利用者、家族が意見交換できるよう配慮している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者別に日々の生活状況を記録している。介護計画の目標が達成されたかどうかについても毎日記録され、到達度を把握している。書類作成の工夫がなされ、モニタリングが非常にしやすく、新たな課題も見つけることができている。日々のモニタリングに加え、半年に1度は、家族を交えたカンファレンスを行ない、介護計画の見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が希望すれば、職員の付き添いによりデイサービス(3階に併設)の催しに参加したりしている。	○	事業所の多機能性を活かし、地域住民に向けた介護に関わる各種の取組み(「介護予防」の知識などの周知)にも着手してはどうか。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望で決めている。ホームを利用する前からの医師を希望される場合は、そのまま継続していただき、家族の協力も得ながら状況に応じた受診の支援をしている。主治医をホーム近くの協力医へ変更する利用者も多く、定期的な往診、緊急時の電話相談等適切な医療を受けられる体制をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナル期に近づきつつあると思われる利用者については、ターミナルケアについて、かかりつけ医や家族と話し合い、「今、生活している場で過ごさせてあげたい」との希望があった場合は、事業所方針を説明したうえで、皆で方向性を共有している。	○	重度化・終末期に向けた方針の共有については非常に大切なことなので、ホーム内で協議し、今後もその意識を高めていってほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉かけや対応には十分に配慮し、やさしく思いやりのある対応を心掛けている。記録書類は鍵のかかる書庫に保管し、個人情報の利用については契約書に記載し、家族等に説明し同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も(職員側の都合ではなく)利用者の希望を優先するように心掛けている。朝寝を楽しんだり、時々ビールも楽しんだり、携帯電話で家族との会話を楽しんでいる利用者も見られる。		



外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を出し、利用者の意見も聞きながらメニューを決める。料理作りには利用者も参加できるよう、椅子に座っていても可能な作業を考えたりし、また、電磁調理器などを使って利用者の目の前で煮炊きすることにより、足の不自由な方も食事作りが楽しめるようになった。職員が利用者にも味付けのアドバイスをもらうことも多い。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は特に決めず、希望があれば1日おきの入浴も支援している。	○	利用者の希望に、より対応できる体制を工夫してほしい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節行事や外食、遠足等、様々な行事を毎月多く実施している。パースディツアーでは、行きたいところへ家族と一緒に出かけられる利用者もおり、とても好評である。日々の生活の中でも、料理作り、編み物、小物作り、園芸など、利用者にあった能力や得意分野を活かした役割をお願いし、張り合いのある暮らしができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩、買い物、外食…等々、毎日、外出する機会を作るようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関前道路の交通量が多く、時間帯によっては施錠することもあるが、職員全員が利用者の行動パターンを把握することで、「鍵をかけないケア」に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを整備し、消防署の協力により避難訓練(年に2回)を行っている。地域住民の参加・協力による避難訓練は行っていない。	○	地域協働での避難訓練の開催に取り組んでもらいたい。緊急時の職員のみによる誘導には限界があることを意識していただき、日頃から地域住民や警察署、消防署との連携を深め、体制を整えてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については一人ひとりについて日々記録され、職員が把握している。メニューについては、栄養バランスを考え、量や形状は利用者の身体状態や希望に合わせて加減し、嗜好や食習慣に応じた支援を実施している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花も飾り、明るく開放的な雰囲気になっている。壁面には利用者の日常の姿を撮った写真(どれも表情豊かで微笑ましい)が飾られ、これもホーム全体の雰囲気作りの一躍を担っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居心地を第一に、居室の家具は利用者本人が使い慣れた物を物を使用し、思い出の品や大切にしていた物も自由に持ち込んでいる。利用者の身体状況に応じて手すりを設置する(または、移動動線上に手すり代わりに重量感のある家具を配置する)など工夫している。		

※  は、重点項目。